

豊かな地域療育を考える連絡会 報告とお知らせ

第192回定例会を7月14日(木)に実施しました。Zoomによるオンライン定例会は全体会・部会で31名の参加でした。5つの部会に分かれてオンラインでの話し合いができました。

1. 卒業後の支援—NPO法人ぶらりば活動紹介(ミニ学習会)

報告者 NPO法人ぶらりば 理事長 小幡 富士雄 様

○ はじめに

1999年麻生区新百合ヶ丘の周辺で障がいのある子どもたちと音楽を主体としたYou-Youクラブという活動をしていた。その後、わになろう会・麻生としてタイムケア、日中一時支援事業所として活動。

当時小さい小学生だった子どもたちも高校卒業後も通ってきている。そこで卒後の進路、受け皿が少ない、自分たちの思うところにいけないという問題に直面した。困っている人たちがいたら、それを何とかする、という新井イズムに習い、関わってきた子どもたちの手つだい、卒後の場を作ろうということになった。

それで、お弁当屋というグループ活動を始める場を探した。多摩線の黒川、27年前に川崎市が工業団地として中小の情報・電子産業を誘致したマイコンシティの一角が活動の場所。

地域活動支援センターSeedsを立ち上げ、「弁当弁(べんとうべん)」という弁当の製造販売活動を始める。スタート時は大変だったが10年目、周囲の会社の人々が利用してくれるので結果的に場所とはリンクしていた。

その後、2020年にわになろう会から独立し「NPO法人ぶらりば」に。その時に川崎市の支援体制が前と変わっており、Seedsを就労継続支援B型に変更したが、さまざまな支援内容は引き続き同じような形で行っている。

○ 卒後の受け入れ。

生活介護リアン。B型Seedsの日中活動の場。

お弁当を始めた後にお茶を飲むカフェ・ド・リアンを一角に設けている。カフェはコーヒー、手作りケーキなどを提供。活動のメインは接客、注文取りだが利用者それぞれにできること、得意なことにグループ分けし、Aはコミュニケーションが好きな人でカフェの運営。Bは地道な作業が好きな人が外注

の軽作業や受注製品を作ったりする。Cはコミュニケーションが苦手なルーティンが崩れるとパニックが強い人。静かな環境でできる仕事をする。適性にあった支援計画を作って本人と相談して仕事を決めている。

定例イベントとして音楽演奏、歌を歌ったりするフェスや自主製品を販売するマーケットなどを年に何回か開催。

○ 就労継続支援

川崎市から「認可されていたSeedsをぶらりばという新法人では認可できない」と言われ、急遽B型の申請をして認可をもらった。地域活動センターと中身は変わらないが個別支援計画をたてて、それぞれにあった仕事の活動をしている。

○ 同じ場所でやっているのが多機能型に

B型は畑を近所に借りて農作業。農地は270坪。全部の農作業を生活介護の利用者も一緒に活動。弁当弁の店頭で完全無農薬の野菜を販売。畑の作物も人気。彼らができるものをなるべく用意しようといういろいろなところにアプローチして探す。

Seedsは年齢19歳から59歳。リアンは18歳から48歳。川崎市の「小規模生活介護事業所整備事業補助金」に乗っかっている状況になっている。

高校卒業者受け入れでスタートしたがそういう方ばかりでなく地域には行き場所がない人がいる。相談支援センターから受け入れの相談がある。

行政と相談しつつ間口は広げていきたい。

○ 将来の展望

元はコンビニがあった場所。つくりが道路に面していてガラス越しになっており、働いている姿がオープンに。あえて周囲にオープンなスタイルのままにしている。障害のある人に理解と関心を持ってもらえたらうれしい。地域に開かれたぶらりばを作りたい。

2. 事務局より

○ 子ども権利の日フォーラム

・家庭支援。障害のある人当事者に対しての支援はだいぶ広がっているがそれを支える家庭の支援がないと感じている。そこを今回のテーマに。

社会福祉法人なごみ福祉会の療育相談、子ども相談の事業所でんでん虫の栗原さんが基調提案をしてくださる予定。

・例年通りフォーラムを11月23日開催予定。

3. 夏休みを楽しくすごす会について

今年は8月2～5日の4日間を予定していましたが、健康・安全を第一優先で中止を決定。

4. 部会報告・近況報告 紙面の都合で省略

193回定例会は 9月8日(木) 9:30～11:30 (全面リモートで実施予定)

参加申込および問い合わせは、事務局044-455-7468 七川まで